



ニッポン
ドクター和の

臨終区巻

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、きどき音楽ライブも。

歌手 八代亜紀

340

昨今は「あなた、綺麗だね」とか「美人だね」と女性を褒めることさえも、セクハラになる場合があります。ましてや「いい女だね」なんて軽々しく口にするのは許されない世なのかもしれません。しかし、「素敵な女性です」と言っつりも「いい女だね」と伝えたいときは、あります。美しさ、妖艶さ、頭の良さ、優しさ、そしてどこか天真爛漫(らんまん)で、そう、この人は僕にとって、「いい女」の象徴でした。大ヒット曲『雨の慕情』や『舟唄』のヒロイン像も無論、影響しているのですが。

「いい女だね」と言いたくなる

歌手の八代亜紀さんが、昨年12月30日に亡くなりました。享年73。昨年8月頃から体調不良を訴え9月に膠原(こうげん)病と診断。その後、治療に専念するため年内の活動休止を宣言されていました。



八代さんの公式ホームページで以下のように報告されています。「2023年9月に膠原病の一種であり指定難病である抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎と急速進行性間質性肺炎を発症し療養を続けておりました弊社所属の八代亜紀が12月30日に永眠いたしましたことを謹んでご報告申し上げます」

膠原病とは、本来なら自分を守ってくれるはずの体内の免疫システムが何かのきっかけで誤作動を起し、皮膚や関節、体内のあらゆる部分に炎症や障害をもたらす病気の総称でひとつの病名ではありません。最近、膠原病になったという人をやたらと耳にします。関節リウマチや、全身性エリテマトーデスなどがよく知られています。皮膚筋炎は膠原病の中では患者数が少ない病気のひとつですが、八代さんが診断された「抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎」は、さらに稀(まれ)な疾患です。初期症状として肘や膝、手の甲などに皮膚潰瘍が現れます。そのため、皮膚

科を受診してこの病気が判明する人がほとんどです。その他の症状としては、脱毛や口内炎などがあります。抗MDA5抗体は、自己を攻撃する抗体として、わずか15年ほど前に発見された抗体であり、治療法が確立されていません。この病気になると半数近くの人が、八代さんの直接の死因となった「急速進行性間質性肺炎」にまたたくまに罹患(りかん)し、死に至ることがわかっていきます。

もう、あの歌声が聴けないなんて。八代さんのレパートリーは広く、本格的なジャズアルバムも作っています。これがまたとてもいい。2022年8月のお誕生日には、ブルーノート東京でのパフォーマンスが評判を呼びました。

先日僕は、そのブルーノート東京に大竹しのぶさんを観に行きました。受付のテーブルにさりげなく置かれていたのは、八代亜紀さんのポートレート。思わず写真に撮り「いい女だったなあ」と独りごちたち、泣けてきました。